

出題の意図

学部名等（特別支援教育特別専攻科） 教科・科目等（教育学）

問題は、教育時事として最新のトピックである次期学習指導要領の改訂に向けた論点整理の中から、基本的な議論の方向性として打ち出されている事項について論じさせることで、以下の能力を測るものである。

- ・教育の最新政策動向についての理解度（最新のキーワードについて理解しているか）
- ・①「主体的・対話的で深い学び」と②「多様性の包摂」を統合させて論じる柔軟性（二項対立的に論じられやすい内容をまとめる力があるか）
- ・特別支援教育の専門性を実際の学校現場での実践に接続する力（現場での具体的な取組みに即して論じられるか）
- ・学術的根拠に裏付けられた論述力（概念定義、関係整理、具体化に説得力があるか）

※一義的な解答が示せない記述式の問題につき、解答例の記載を省略しています。

出題の意図

学部名等（特別支援教育特別専攻科） 教科・科目等（教育心理学）

問1は、自己効力感に関わる4つの要素について、それぞれの内容を説明させることを通して下記の3点を評価する。

- ①教育心理学における自己効力感の概念の正確な理解。
- ②教育心理学における自己効力感の概念を児童生徒の学習行動に関連付けて捉える力。
- ③的確な言葉で概念を説明する文章表現力。

問2は、問1で整理した4つの要素を踏まえ、児童生徒の自己効力感を高めるための教育実践を具体的に説明することを求めるものである。学校種や対象としてイメージする児童生徒の実態を限定しないことで、受験者が自らの教育経験・専門分野を活かして解答できるようにしている。

評価は下記の3点に焦点をおく。

- ①4つの要素を単独で説明するだけでなく、実際の教育場面においてどのように活用できるかを理論的に結びつけているか。
- ②発達の状況に応じた指導・支援の工夫を具体的に述べられているか。
- ③授業や他の学校生活の場面を具体的に想定して述べられているか。

解答例

学部名等（特別支援教育特別専攻科） 教科・科目等（教育心理学）

1 Bandura（バンデューラ）が示した自己効力感に関する以下の問題に答えなさい。

（問1）バンデューラが示した自己効力感を高める4つの要素について、それぞれ説明しなさい。

（ア）成功体験

自分の努力によって課題をやり遂げた経験が、最も強く自己効力感を高める要因である。成功体験を通して「自分にもできる」という確信が生まれ、次の挑戦への意欲が高まる。逆に、失敗が続くと自己効力感は低下しやすい。教育場面では、児童生徒の発達段階に合わせた課題設定や、成功を実感できるステップ構成が重要である。

（イ）代理経験

他者が課題を達成する姿を観察し、「自分にもできそうだ」と感じることで自己効力感が高まる。特に自分と似た特性をもつ他者（年齢や能力が近い仲間）の成功を目にすることが効果的である。

（ウ）言語的説得

教師や友人、保護者など他者からの励ましや肯定的な言葉かけによって、「自分にもできる」という期待を高める方法である。根拠のない励ましは逆効果になりうるため、児童生徒の努力や過程に焦点を当てた具体的な言葉かけが求められる。

（エ）生理的・感情的状態

緊張や不安、疲労などの身体的・情動的状态の時には、自己効力感は低下しやすい。逆に、安心感やリラックス、疲労が回復している状態にあるときは、「できる」という感覚が生まれやすい。教育場面では、失敗しても責められない安全な雰囲気づくりや、活動前の心身の状態を整える工夫が重要である。

（問2）バンデューラが示した自己効力感を高める4つの要素を踏まえ、児童生徒の自己効力感を高めるための教育実践について具体的に説明しなさい。なお、学校種や対象の児童生徒の実態については自由に設定して構わない。

小学校の特別支援学級（知的障害）を想定する。学習活動の前には、遊びの要素を取り入れたアイスブレイクの活動を取り入れて安心感・リラックスした雰囲気づくりを行う（生理的・感情的状態を整える）。次に、学習課題に入る前には教師のモデルや映像資料を見せて、やるべきことの見通しを持てるようにする（代理経験）。課題に取り組んでいる過程で、児童に不安な様子がある場合は、どのような手順・心構えで取り組んだら良いのかを説明する（言語的説得）。このプロセスを経て、児童が問題を解くなどの課題達成ができると成功経験につながり、学習課題に対する自己効力感を高めることができる。

出題の意図

学部名等（特別支援教育特別専攻科） 教科・科目等（特別支援教育学）

課題文は、小学校の通常の学級における支援について問うものである。特に、「学級の児童全体への支援」と「学習面及び行動面に課題を示す児童たちへの個別の支援」に関して、受験者に意見を論述させることで以下の能力を問う。なお、受験者の思想や信条を問う意図はない。

- ・読解力（課題文を正しく解釈できているか）
- ・特別支援教育に関する知識（特別支援教育を学ぶ上で基盤となる知識を有しているか）
- ・構成力（文章が適切に構成されているか、文章の論理が首尾一貫しているか）
- ・説得力（意見・主張が明瞭に示されているか）

※一義的な解答が示せない記述式の問題につき、解答例の記載を省略しています。